



社会福祉協議会だより

第 41 号

令和3年9月1日 発行  
高砂地区社会福祉協議会

発行責任者  
遠藤 幸 男

令和3年度 高砂地区社会福祉協議会通常総会（書面議決）について

令和3年度高砂地区社会福祉協議会の通常総会は、昨年度同様新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から評議員の出席による開催に代えて、「令和3年度通常総会」資料を送付の上、書面表決書の各議案への賛否等を記入して頂きました。

議案の可否については「賛成」が過半数を超えた場合、可決とさせて頂く対応を取りました。

その結果について、以下のとおりご報告いたします。

1. 書面表決書の集計結果

送付枚数	回収枚数	回収率
148通	132通	89%

2. 議案への賛成・反対・無効枚数

議 案	承 認	賛 成	反 対	保 留
第1号議案 令和2年度 事業報告	132	—	0	—
第2号議案 令和2年度 決算書（監査報告書）	132	—	0	—
第3号議案 令和3年度 事業計画（案）	—	132	0	—
第4号議案 令和3年度 会費納入金額（案）	—	132	0	—
第5号議案 令和3年度 予算（案）	—	131	0	1
第6号議案 令和3年度 役員改選（案）	—	132	0	—
第7号議案 規約改正（案）	—	131	1	—

3. 議案への結果

- (1) 第1号議案～第2号議案について過半数の承認をもって可決されました。
- (2) 第3号議案～第7号議案について過半数の賛成をもって可決されました。

※ 各議案の（案）を削除願います。

## たかさご社会福祉協議会だより

### 令和2年度 事業報告 (全般)

令和2年度の高砂地区社会福祉協議会は、会長以下9名の役員が交代し新たな船出となりましたが、予想もしない新型コロナウイルスの感染拡大により、高砂社協、日赤奉仕団、共同募金会、子育て支援会及び高砂社明が計画した多くの事業を中止しなければなりません。安全安心を心掛けながら次のような活動を行いました。

1. 感染対策を十分取って毎月の高砂社協役員会の開催を実施する。
2. 小地域福祉ネットワーク活動の一環である高齢者世帯等への「見守り活動」を実施する。
3. 歳末助け合い事業は「令和元年度の台風19号による床上浸水被害家庭に対する見舞金」の贈呈を実施する。
4. 「たかさご社会福祉協議会だより」の年1回発行する。
5. 各団体の会議・研修会へ出席する。

### 令和3年度 事業計画【基本方針】

1. 高砂地区社会福祉協議会は、仙台市及び仙台市社会福祉協議会並びに高砂地区町内会連合会等との連携を図りながら高砂地区の福祉向上のための活動をする。
2. 高砂地区社会福祉協議会の活動は、高砂地区日本赤十字奉仕団、高砂地区共同募金会、高砂地区子育て支援会及び社会を明るくする運動高砂地区推進委員会との連携・協力を図りつつ、それぞれの事業を推進する。
3. 高砂地区社会福祉協議会の活動は、高砂地区の49町内会と、そこに生活する19,000世帯からの善意の会費から成り立っていることを肝に銘じ、真摯な姿勢で地域福祉に貢献する。

### 令和3年度 高砂地区社会福祉協議会役員

役 職	氏 名	関 連 役 職 ・ 担 当	備 考	区 分
会 長	遠 藤 幸 男	統括	港南町内会会長	留任
副 会 長	稗 貫 繁	総務担当	栄四丁目町内会会長	留任
	片 桐 勝 二	日赤奉仕団 団長	田子西中央町内会会長	留任
	小 幡 重 一	共同募金会 会長	高砂向田町内会会長	留任
	川 本 幸 子	子育て支援会 会長	第一民児協副会長	留任
	郷 家 勤	社明高砂推進委員会 委員長	保護司	留任
地 域 活 動 推 進 員	千 葉 久 子	小地域福祉ネットワーク活動推進員	第一民児協副会長	留任
	佐 藤 啓 子		第二民児協副会長	留任
	加 藤 信 一		第三民児協会長	留任
会 計	高 橋 利 昭		仙石町内会会長	新任
理 事	千 葉 均	総務担当	第一民児協会長	留任
	遠 藤 芳 広	日赤担当 日赤副団長	新浜町内会会長	留任
	百 目 鬼 憲 一	共同募金担当 共募副団長	第三民児協副会長	留任
	高 橋 美 枝 子	子育て支援担当	第二民児協主任児童委員	留任
	富 田 吉 明	社明推進委員	第二民児協副会長	留任
監 事	川 名 清		田子西町内会会長	留任
	鈴 木 文 吉		福田町上区町内会会長	新任

## 令和3年度 各種事業の具体的な進め方

### 1. 小地域福祉ネットワーク活動

- (1) 高齢者を対象に、安否確認のための「見守り活動」を継続するとともに、地区ごとに「ふれあいいきいきサロン」を開催し、活動の充実を図る。
- (2) ブロック会議を開催し、ブロック内における事業の円滑な活動を図る。
- (3) 福祉委員の資質向上を目的に「福祉委員研修会」を開催する。
- (4) 小地域福祉ネットワーク活動の充実と関係者の相互交流を図るため、全体会議を開催する。
- (5) 地域包括支援センターと連携強化を図りつつ、包括ケア会議及び懇談会等へ参画する。
- (6) 介護予防運動サークルの活動促進を図る。
- (7) 宮城野区障害者自立支援協議会と連携を図り、地域住民との共生社会の形成に努める。
- (8) 歳末たすけあい事業の内容を検討する。

### 2. 子育て支援活動

- (1) 子育てサロンの充実を図り、地域で安心して子育てできる環境づくりを目指す。
- (2) サロン活動推進者メンバーの全体会議を開催し、情報を共有化し課題解決を図る。
- (3) 関係機関と連携して推進する。

### 3. 日赤奉仕団活動

- (1) 災害救援・保健衛生・社会福祉援護などの福祉的支援活動を推進する。  
※ 日赤の役割や活動紹介、献血協力の呼びかけ等の活動に取り組む。
- (2) 各市民センターまつりに参加する。
- (3) 奉仕団員研修会を開催する。



「母親とお子様の楽しい交流」子育てサロンの様子

### 4. 共同募金会活動

- (1) 宮城県、仙台市共同募金会による助成事業に対し、募集要項を各町内会に配布し助成申請の支援を図る。
- (2) 高砂地区の各市民センターまつりにおいて、募金活動を継続する。

### 5. 社会を明るくする運動

- (1) 高砂防犯協会と連携し、仙石線駅前（福田町・高砂・中野栄）で街頭宣伝活動を実施する。
- (2) 広報紙「社明みやぎの」の発行に参画する。
- (3) 青少年健全育成講演会に参画する。

### 6. 組織機能強化

- (1) 多様化する福祉ニーズへの対応と福祉視点の向上を図るために、研修会、講演会、関係団体との情報交換会を企画・参画する。
- (2) 監査2回（半期・年間）実施する。
- (3) 事業は各担当が主体性を持って展開（企画・立案）し、役員会により各事業の情報を共有し、役員相互の理解を図ると同時に、より活性化する地域福祉活動のあり方についても検討する。
- (4) 広報紙「たかさご社会福祉協議会だより」を発行する。

## 小地域福祉ネットワーク活動とは

地域の住民同士が網の目のように連絡・連携しながら、お互いの生活を支え合っていく活動で平成8年から推進しております。

### 1. 小地域福祉ネットワーク活動のメニュー

基 礎 的 活 動		生 活 支 援 活 動	
基本メニュー	選択メニュー	日常生活支援活動	サロン活動
安否確認活動・連絡調整会議・調査活動・研修・広報活動	地域ごとに設定する重点的な取り組み	日常生活上ちょっとした家事や外出などが困難になっている世帯を支援する活動	サロン活動

### 2. 高砂地区の主な小地域福祉ネットワーク活動の実績

活動項目	具体的活動名	令和元年度の実績	令和2年度の実績
基 礎 的 活 動	(1) 見守り活動	(1) 62,440件 3,738世帯	(1) 59,318件 3,768世帯
	(2) 全体会議	(2) 1回 25名参加	(2) 0回
	(3) ブロック会議	(3) 22回 386名参加	(3) 5回 68名参加
	(4) 福祉委員研修会	(4) 1回 145名参加	(4) 0回
	(5) 広報活動	(5) 「たかさご社会福祉協議会だより」2回発行	(5) 「たかさご社会福祉協議会だより」1回発行
生活支援活動	(1) 日常生活支援活動	(1) 393回	(1) 436回
	(2) サロン活動	(2) 72回 1,626名参加	(2) 0回

### 3. 高砂地区小地域福祉ネットワーク活動系統図



解  
説

- ① 地域活動推進員は事業計画等の策定をしております。
- ② ブロック長は事業運営の統括をしております。  
※ 田子、高砂、高砂市宮住宅西区・東区、福室、栄、鶴巻、岡田、中野の9ブロック
- ③ コーディネーターはブロック内での福祉委員のまとめ役をしております。
- ④ 福祉委員は見守り活動やふれあいサロンの企画運営の活動をしております。
- ⑤ ふれあいサロンは町内会主体の活動です。町内会長等から支援協力を頂いております。

編  
集  
後  
記

暑い夏が過ぎたとは言え、まだまだ残暑が厳しい毎日が続いております。今年の夏は、特別な夏でした。開催が危ぶまれた紆余曲折の2020東京オリンピック・パラリンピックが今まさに実施されています。世界のアスリートから競技を通じ多くの感動、希望、夢、元気、勇気…等を頂きました。改めて、コロナに「負けない・屈しない」ことを肝に命じたところです。

昨年同様、今年も当協議会の活動は相当制限されておりますが、現在は、「静なること林の如く、動かざること山の如く」で、本来の活動時期が来た時は、今まで以上の地域社会貢献が当協議会に課せられた使命であると日々感じている今日この頃です。

副会長総務担当 稗 貫 繁